

教員おすすめ図書コーナー推薦書

教員氏名	
佐藤 和宏 先生	おすすめメッセージ
<p>① 図書名：東京オリンピック2017 都営霞ヶ丘アパート</p> <p>著者：青山真也（編）</p> <p>出版社：左右社</p> <p>ISBN：486528060X</p>	<p>私ほど、この教員おすすめ図書コーナーの推薦書のことを考え続けている人間はいない（と思う）。スマホに推薦候補のメモをとり、図書館に行くたびに借りられていないかチラ見する（好きな子のことをチラチラ見る中高時代を想起されたい）。研究や授業に直接関係ないものにしよう、という謎こだわりも。ただ、今年からは、もう授業で扱うものも挙げよう、と思った。理由は単純で、学生さんが読めないから。この本は、「地域づくりを学ぶ」のオムニバス授業で扱っているテーマのネタ本のひとつ。オリパラをやることになりました。オリパラには予算をつけ、大幅に超過し、再開発を進めます。路上生活者を都市から追い出し、公営住宅から住民を追い出して住宅を撤去し、平和の祭典だ、とのこと。感想はたった一言、「はあ？」</p>
<p>② 図書名：なぜ母親は娘を手にかけてのか：居住貧困と銚子市母子心中事件</p> <p>著者：井上英夫ほか（編）</p> <p>出版社：旬報社</p> <p>ISBN：4845114631</p>	<p>二つの約束——本来の「約束」なる言葉の意味とは違うが、そういうものとして——が、本書を私に推薦させた。一つには、本書にも書かれている林治さんの言葉だった。「佐藤さん、私の章なんかはいいから、とにかく湯澤直美さんの章だけでも、読んで欲しい」。読んでみて思うのだが、私は、日本語を読むことのできる、地球上のすべての人民が、本書（少なくとも湯澤先生の章だけでも）を読むべきだと思う。いま一つは、「地域づくり論」の担当を今年からやることになったことである。授業で本書を紹介し、公務員として、あるいは生活者として、何が問題か・どうすればよいか考えて欲しいと学生に伝えた。本学図書館にはまだ置かれていない。本推薦書をもって、私は学生への約束を果たすことができた。</p>
<p>③ 図書名：「働き方改革とハラスメントの逆説——森喜朗氏発言に考える」世界943号</p> <p>著者：平田オリザ</p> <p>出版社：岩波書店</p> <p>PP. 285-287</p>	<p>ゼミをどうやってやったらいいか迷っている。過去に推薦したものを見ても、自分という人間は、ひとりでウダウダ悩んでいると思った。というのも、生活のほぼ全て、自分がひとりであるからだと思う。ただそれだと、人間といないから、そういうこともあって、ゼミがピンと来てないのかなと思った。（東畑開人さんも考えたが、）結局、いい本が思い浮かばなかった／出会えなかった。そこで、自分が購読している雑誌から、ヒントになるものを選んだ。本コラムを読んで思い浮かんだのは、「かけがえのない、俺」。なんでハラスメントが起きるのかと言えば、それは、「こんながんばった俺」が原因ではないか、とするもので、消極的にはハラスメントが起きないように、積極的には組織づくりとして、興味深く読んだ。ただ、答えは出ていない。</p>